

閃光

発行元

ビジネス教育訓練所株式会社

令和七年十月号

Business

「未来の扉を開いた大阪万博」

先日、大阪・夢洲で開催中の大阪・関西万博に家族で行ってきました。まず目に飛び込んできたのは、会場デザインプロデューサーで建築家の藤本壮介氏が手がけた「大屋根リング」です。事前に「人々が『万博に来た』と納得できるものを創りたかった」という藤本氏の記事を読んでいたのが、実物を見るのを楽しみにしていました。全長約二キロメートル、高さ最大二〇メートルに及ぶ大屋根リングは、「世界最大の木造建築物」としてギネス世界記録にも認定されています。登って景色を楽しむのも良し、パビリオンを眺めながら歩くのも良し、休憩するも良し。まさに今回の万博のシンボリックな存在で圧巻でした。

大阪万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」でコンセプトは「未来社会の実験場」です。会場に並ぶパビリオンは、最先端技術の粋を集めつつ、人間の生き方や地域の知恵、環境との共生を見つめ直す空間として設計されていました。私は二〇年前に愛知県で開催された「愛・地球博」にも足を運びましたが、今回AI技術を駆使したデモンストレーション等、より近未来を実感させるものでした。一方で、気候変動や資源枯渇といった課題の克服なしには未来を描けないという現実も突きつけられました。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とは、単なるキャッチコピーではなく、「未来社会を形づくるのは、今を生きる一人ひとりの責任」というメッセージなのだと感じました。

一九七〇年の大阪万博が日本の技術や経済力を世界に示した場であったのに対し、今回の万博は国際的な「共創の実験場」であるということを示していたと思います。異なる文化や背景を持つ人々が互いに耳を傾け、共に未来像を編み上げる。その体験は、分断が深まる世界にとって非常に貴重な試みだと実感しました。

前評判に不安もありましたが、まさに「百聞は一見にしかず」。多くの学びと感動を得られました。この体験を一時的なものに終わらせず、「未来をデザインするのは私たち自身」であることを心に刻んでいきたいと思います。

ビジネス教育訓練所株式会社
代表取締役 高谷 愛美

日々是精進

講師の独り言

講師
佐藤 晃樹

「体験に勝るものなし」

昨年から挑戦したいと思っていた「キャニオニング」に、ついに参加してきました。キャニオニングとは、「沢下り」とも呼ばれ、体一つで急な岩場を滑り降りたり、高所から滝つぼに飛び込んだりして楽しむ、自然を満喫するアウトドア体験です。

実は私、水と高所が大の苦手。それでも「だからこそ、挑戦すれば違う景色が見えるのでは」と思い、思い切って挑戦しました。

当日は前日の雨で水量も増し、流れも速くなっており、インストラクター曰く、「今日は最高

のコンディション」と。しかし、私にとっては緊張感が高まるばかりでした。

最初は低い高さから飛び込んだり、緩やかな岩場を滑り降りたりしましたが、それでも一度ごとに息をつくほどの刺激。回数を重ね徐々に慣れてくると、水や高さへの恐怖はあったものの、最初程のためらいはなくなりました。何より滝つぼに飛び込んだり滑り降りた後に、何とも言えない充実感と達成感を味わっている自分がいました。4時間のツアーはあっという間に終わり、最後には「来年も挑戦したい」と思え

るほどでした。

誰しも初めての体験には不安があります。しかし一步踏み出すことで、自分でも気づいていなかった可能性や新しい自分に出会うことができます。今回のキャニオニングを通して、改めて「体験に勝るものなし」と強く実感しました。

弊社の研修も同様に、体験を通じてこそ得られる学びを大切にしています。苦手や未知の領域に挑戦することが、成長や新たな発見につながる。そのような機会を今後ご提供してまいります。

人は何歳になっても成長できる

成人発達理論が示す「組織と人材の可能性」



近年、人材育成や組織開発の分野で注目されている理論に「**成人発達理論**」があります。この理論は、子どもの成長だけでなく、大人もまた発達段階を経て成長し続ける存在であることを示しています。つまり、**人間は何歳になっても新たな視点や価値観を獲得し、より高度な判断や行動ができるようになる可能性を秘めている**ということです。しかし、現実には、多くの組織で「人は簡単には変わらない」という思い込みが根強く存在しています。その背景には、次の3つの要因があります。

1つ目は、「**何が成長を妨げているのかを十分に理解できていない**」こと。課題の本質が見えていないままでは、適切な打ち手を講じることができません。

2つ目は、「**どうせ人は大して変わらない**」という固定観念。努力しても結果が伴わないという思い込みが、より積極的に関わろうとする挑戦を阻んでしまいます。

3つ目は、「**人間的な成長は年齢を重ねても止まらない**」ことを理解していても、それが組織内での教育や実践に十分に反映されていない現実です。

これらの壁を超え、本当の意味での能力開発を実現するためには、単に知識を増やしたり行動パターンのレパートリーを広げたりするだけでは不十分です。必要なのは、パソコンに例えるなら「アプリを追加する」のではなく、「OSそのものを進化させる」ことです。つまり、**自分や組織が前提としている価値観やものの見方そのもの**

をアップデートすることが求められるのです。知識や経験はあるものの、視野が狭く活躍の場が限られる方はどのような組織でも一定数いるのではないのでしょうか。

成人発達理論を活用すると、社員一人ひとりが自らの成長段階を理解し、次のステージへ進むための学びを得ることができます。これにより、リーダーはより広い視野から判断できるようになり、組織全体の柔軟性と持続性を高めることができます。「**人は何歳になっても成長できる**」という前提を組織に浸透させることは、社員の意欲を引き出し、変化の激しい時代を生き抜く強さを育てることにつながります。私たちはその実現を支援し、共に未来を創るパートナーでありたいと考えています。(鈴木)



オススメ図書コーナー

『体力おばけへの道』

頭も体も疲れにくくなるスゴい運動』

著：澤木 一貴

「最近疲れを感じやすい」「風邪をひきやすくなった」「やりたいことがあるのに体力が追いつかない」そんな悩みを抱えている人はいませんか。一方で、年を重ねてもいつでもパワフルで疲れ知らずの方もいます。その違いは何でしょう。実は体力には、「行動体力（身体を動かす力）」と「防衛体力（病気やストレスに打ち勝つ力）」の2つがあり、このバランスを整えることが重要。本書では行動体力と防衛体力を向上させる知識と実践トレーニング法を紹介しています。近年の研究では思考や精神的な体力にも、運動は効果的と言われています。「結局最後は体力がある人が勝つ」と母親が言っていたのを思い出しました。(吉田)



研修プログラム紹介コーナー

講義「ハラスメントへの理解」

ハラスメントは特別な人だけに起こるものではなく、誰もが加害者にも被害者にもなり得る身近な問題です。何気ない一言や行動でも、相手にとっては負担や苦痛となり、職場の信頼関係や雰囲気に影響を及ぼすことがあります。本

講義では、ハラスメントの基本的な知識や事例をわかりやすく紹介し、自分の言動を振り返る視点を提供します。上司部下が安心して働ける職場づくりに向け、互いを尊重し合うための第一歩を一緒に考えましょう。(吉田)

■今年の研修日程※参加希望の方は事前にお問合せ下さい。

- 管理者実践4日間合宿 …10月21日(火)～10月24日(金) 延長なし
- 営業マン実践3日間合宿…10月21日(火)～10月23日(木) 延長なし
- ビジネス特訓4日間合宿…12月16日(火)～12月19日(金) 延長あり
- 管理者実践4日間合宿 …12月16日(火)～12月19日(金) 延長なし

■編集後記／生まれ育った環境は、その後の人生にも影響を及ぼすと思います。生きるためには何でもするという厳しい環境で育った人と、自分がしなくても周りが何とかしてくれるという環境で育った人とは、思考や行動に大きな差が生じるでしょう。その両者が競い合えば、結果は明白です。生き残るためには、いち早くその違いを受け入れる、時代を生き抜くために自分を鍛える、そんな「しなやかさ」と「強さ」が求められる時代だと感じます。(吉田)



社員教育・管理者教育の事なら
ビジネス教育訓練所株式会社

〒989-3128 仙台市青葉区愛子中央3-16-2
TEL:022-392-5511 FAX:022-392-5039
E-mail:kensyu@business-k.co.jp
スタッフブログは右のQRコードからどうぞ!▶

